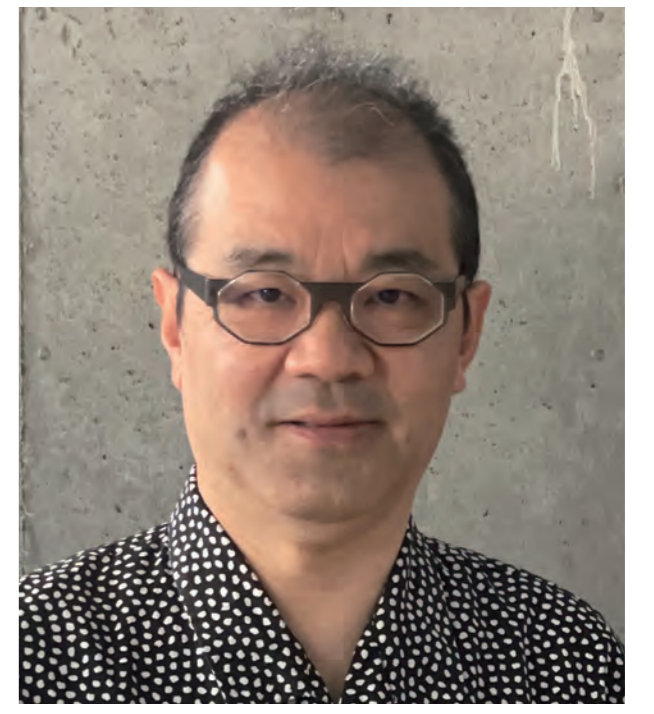


# 今井研究室

## マルチモードな建築デザイン

人間・社会系部門  
価値創造デザイン推進基盤



空間システム工学

工学系研究科 建築学専攻

<http://www.imai-lab.iis.u-tokyo.ac.jp/>



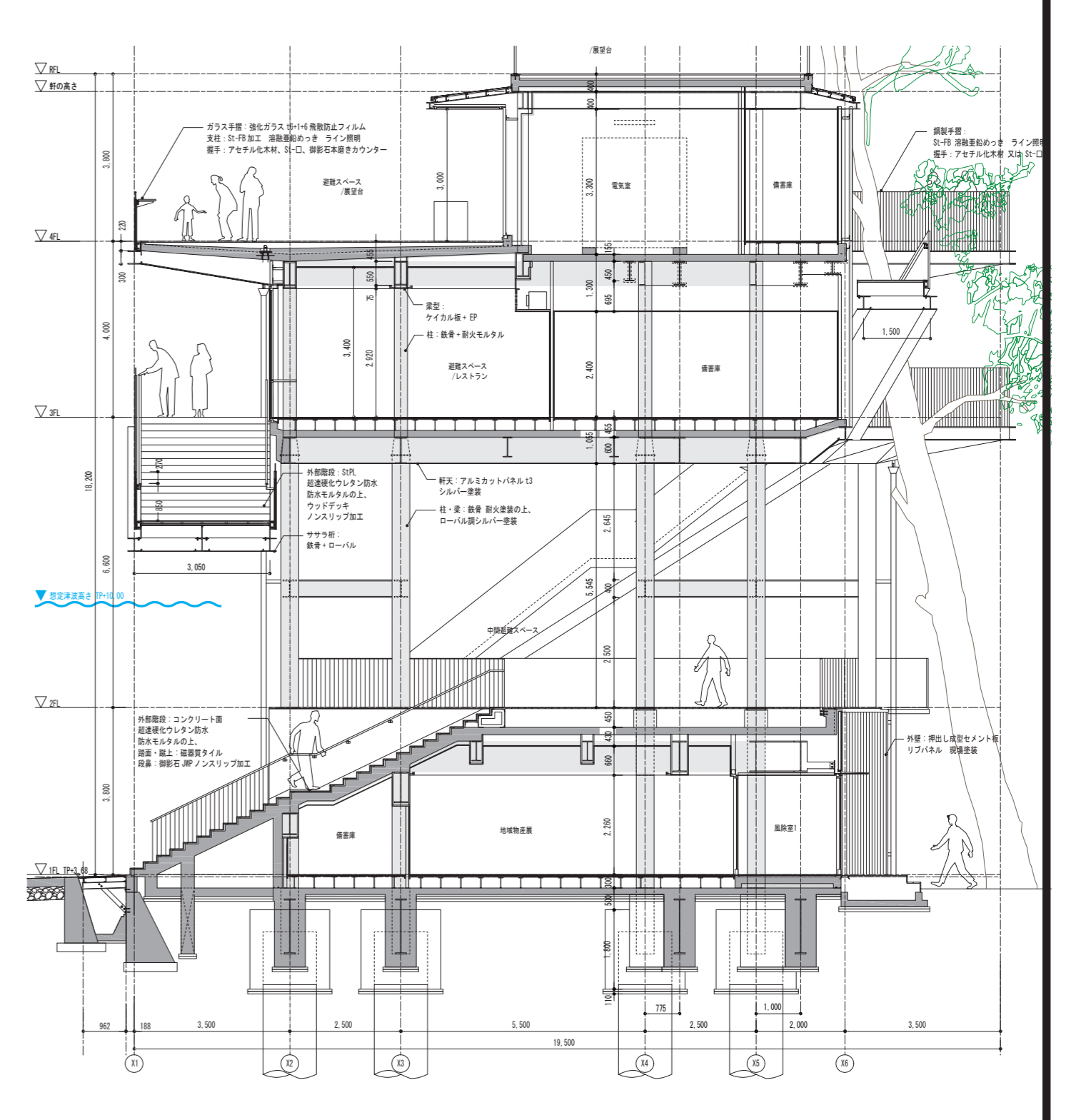
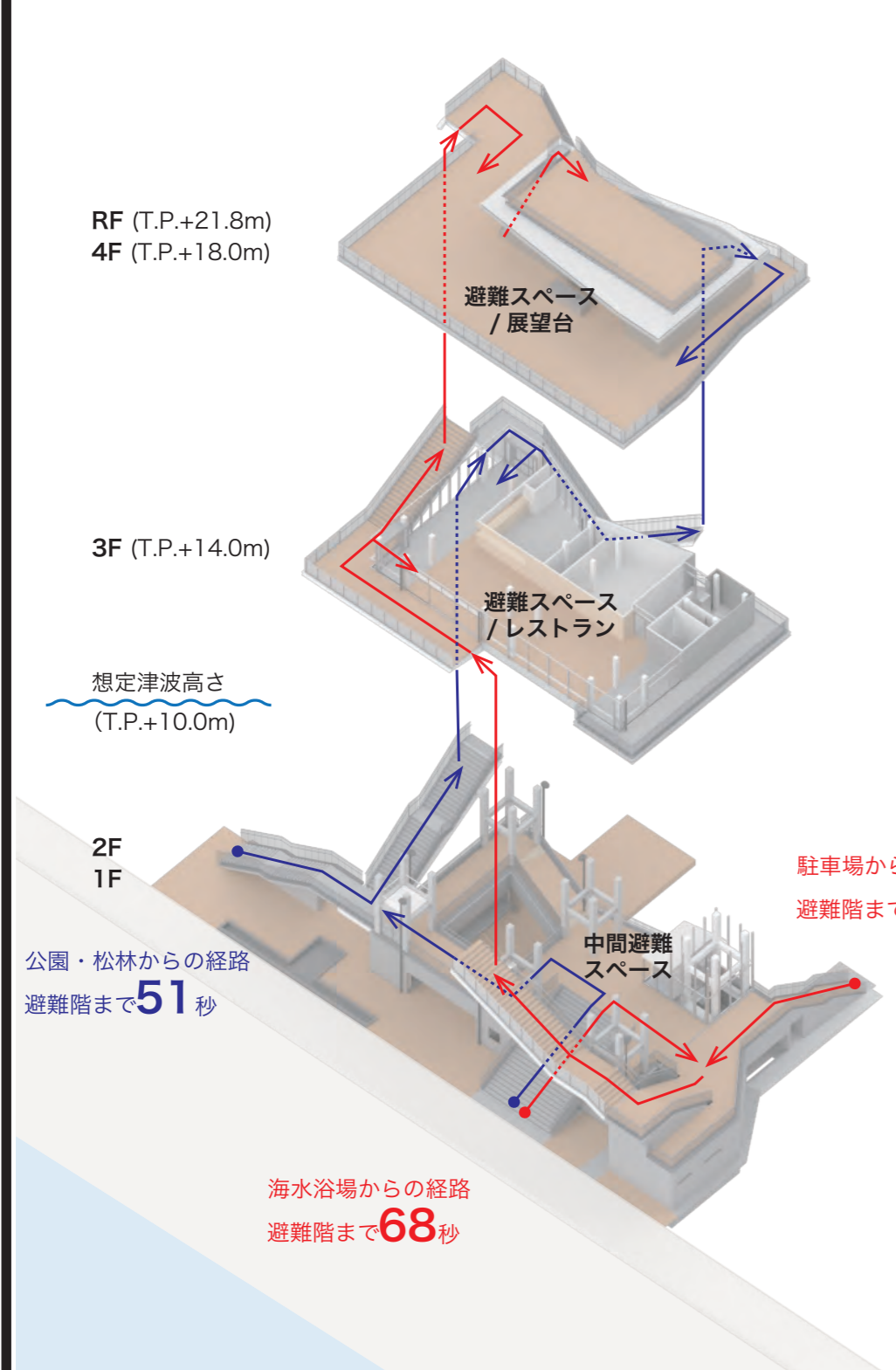
本計画は、津波避難と観光という異なる要請を一体化し、日常利用と非常時利用という二つの状態を同一の空間に重ね合わせた「マルチモード建築」のプロトタイプである。防災施設を単なるインフラとしてではなく、展望台や商業機能を備えた観光施設として日常的に利用可能とすることで、地域経済への寄与とともに、市民が施設の使い方に自然に慣れることにより避難時の安全性を高める。観光客数と地域の居住分布から想定される約1200人の避難を想定し、2・3階の

避難床は展望台や商業空間としても価値の高い場所に配置した。10mを超える柱の途中の高さには、中規模津波への対応や大人数避難時の混雑を緩和するための中間避難階を設けている。この半屋外空間は、上部スラブが生む日影と海風が通るピロティ状の環境を活かし、海水浴客の滞在空間としても積極的に利用される。建物外周には十分な幅員を持つ階段と視認性の高いテラスを配置し、人々は松原の中で眺望を楽しみながら最上階の展望スペースへと導かれる。

非常時の避難動線と日常的回遊動線を重ね合わせることで、防災と観光が共存する新たな地域景観を創出している。こうした設計は、建築を単一の用途に固定するのではなく、社会状況に応じて異なる役割を発揮する空間として捉える試みであり、地域の防災インフラと公共空間のあり方を同時に更新するものである。

\*本計画は加藤孝明研究室（地域安全システム学）と協働のプロジェクトである。

Photograph © Kai Nakamura



避難動線：建物外周を巡る二重螺旋の幅広階段。松原を眺めながら最上階の避難スペースへ導く。

ゲート状の建築が、地域の伝統的風景である松原に調和する重なり、新たな景観を形成する。駿河湾に沈む夕日を受け、軒天井のアルミパネルが柔らかく染まる。

断面図：海へ降りる大階段、ピロティ状の半屋外空間、中間避難階、最上階の避難床が重層する断面構成。

